

東北大学大学院医工学研究科

・ 歯学研究科共催学術講演会

『22世紀のチタンをデザインする ― 骨結合 三次元理論から光機能化、AI表面デザインへ』

小川 隆広 終身教授

Weintraub Center for
Reconstructive Biotechnology,
UCLA School of Dentistry

令和7年11月25日(火)

17:30～19:00

東北大学星陵オーデトリウム
2階講堂



日本は世界随一の食文化を誇りながら、国民の口腔健康は先進国で最も低水準といわれている。インプラント表面は過去30年進化を止め、経験則に頼った“偶然の産物”に過ぎない。一方、DNAシーケンスは何百倍も進歩した。インプラント表面の最適解のために「骨結合3次元理論」が提唱された。素材（純チタン）と時間（光機能化）は解決済み。残る本質はサーフェストポグラフィである。AI駆動設計、機械・化学的具現化、そして実装可能なビジネスモデルを探求することが、22世紀のインプラント表面を、そして笑顔を、今ここに実現する鍵となる。

連絡先：モデレーター

山田将博（医工学研究科 メカノ医歯工学分野）

masahiro.yamada.a2@tohoku.ac.jp